

東京都立産業技術高等専門学校（品川キャンパス）における 英語運用能力テストの結果分析と今後の展望

An Analysis of the Results of the Proficiency Tests in English of the Students in T. M. C. I. T and Prospects for the Future

乾 展子¹, 川崎 正美¹, 小坂 節二¹, 永井 誠¹, 長岡 成幸¹, 樺山 弘盛¹

Nobuko INUI, Masami KAWASAKI, Setsuji KOSAKA,
Shigeyuki NAGAOKA, Makoto NAGAI, Hiromori KABAYAMA

Abstract

The first and second year students in Shinagawa campus of Tokyo Metropolitan College of Industrial Technology took the Global Test of English Communication (GTEC) for the student as a proficiency test for the first time this year. This article investigates the results of the tests as to reading, listening and writing. The results show that their knowledge of words, especially verbs and prepositions, is insufficient. Therefore, they need to enrich their vocabulary. Additionally, we should teach them the skills for reading, like scanning and skimming. Although their scores are not as high as the average of the whole country, their ability in listening and writing has a huge potential for improving.

1. はじめに

本稿では、今年度、品川キャンパス第1学年4クラス（169名）・同第2学年4クラス（150名）を対象に英語運用能力テストとして実施したGTEC（Global Test of English Communication for Students）（以下GTEC）²の結果を分析し³、今後の本校の低学年における英語教育を展望したい。

まず、GTECとは英語における3技能「読む・聞く・書く」のそれぞれの能力を測定するテストである。成績結果は、実用英語検定のように一律基準による合格・不合格ではなく、測定された英語習熟度の高さに応じてスコアが算出される。この点が、低学年における英語運用能力の判定に有効であるとして、今年度より、本校の第1学年と第2学年で本格実施となっている。⁴

GTECは4つのレベル（Junior, Core, Basic, Advanced）に分けられているが、その中で、第1学年にはCoreを、第2学年にはBasicをそれぞれ実施した。Coreにおいて用いられる英語のレベルは中学校2年と3年、Basicは高校1年と2年の英語のレベルに設定されている。今回、本校で実施したGTECの学年別の校内平均、クラス別平均、全国平均は次の表のようになっている。

¹ 東京都立産業技術高等専門学校 ものづくり工学科 一般科目

² 全国で、年間650校以上で実施、約37万人の中高生が受験（2007年度実施）

³ 荒川キャンパスにおいても同じ試験が実施されているが、時間の制約などによって、今回は共同で分析作業を進めることができなかった。経年変化の照合なども視野にいれた両キャンパス共同の分析については、次年度以降の課題としたい。

⁴ 前年と前々年の2年間、モニター実施の期間がある。

第1学年

	校内	1100	1200	1300	1400	高1全国
トータル	316.8	311.4	312.9	314.7	315.1	408
リーディング	111.9	111.3	110.5	112.2	113.6	151
リスニング	124.8	132.1	125.0	117.8	124.2	155
ライティング	80.1	81.1	77.5	84.8	77.3	101
WPM	47.7	48.2	46.5	47.2	49.0	68

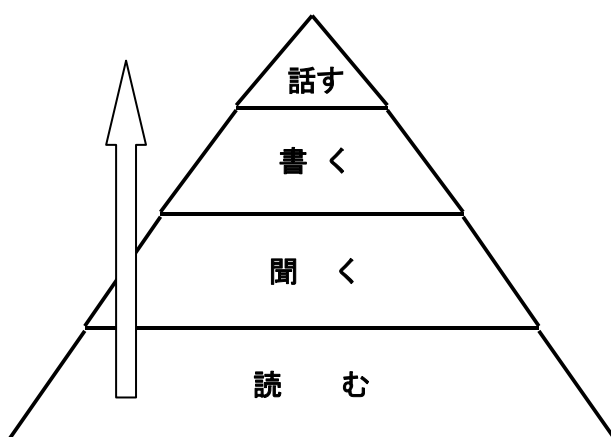
第2学年

	校内	2100	2200	2300	2400	高2全国
トータル	343.9	336.1	309.0	354.1	361.6	445
リーディング	135.6	132.9	119.1	138.2	154.1	168
リスニング	134.5	130.7	128.6	137.1	138.9	172
ライティング	73.9	72.5	61.4	78.9	77.6	105
WPM	59.2	57.9	51.6	58.9	65.0	78

※WPM(=words per minute)は1分間に読むことができる語数

これら両テストの問題内容は、次の通りである。リーディングは「語彙語法問題」、「情報検索・概要把握問題」、「要点理解問題」、リスニングは「イラスト説明問題」、「会話応答問題」、「課題解決問題」、「要点理解問題」、ライティングに関しては「意見展開問題」で構成されていて、これによって英語運用能力を評価する試験となっている。

英語能力を分析する際に、特に重要となる技能が「読む力」である。「ブルームの思考の6段階モデル」によれば、思考の段階は「①知識 ②理解 ③応用 ④分析 ⑤統合 ⑥評価」の6つに分けられ、これが①から⑥へと階層構造をなしている。つまり、①の「知識」を土台として②「理解」へ進み、そして③「応用」へと繋がっていくのである。つまり、Inputに当たる「知識」が基礎となり、Outputの「応用」が形成される。この考えを英語の4技能に当てはめるとInputに当てはまるのが「読む・聞く」であり、Outputに当てはまるのが「書く・話す」である。上記の考え方に沿って、次のような図が提案されている。



この階層構造の形で英語能力が身につけている状態が良好であると考えられている。つまり、英語能力は「読む」「聞く」ことを基礎に段階的に構築されていくので、今回、本校学生の英語能力を分析するためにInputを中心とした「リーディング」と「リスニング」の2つを中心に観察してみたい。Outputについては、今回の試験の対象となっている「書く」能力に関してのみ分析を進めたい。その上で、本年度受験した第1学年と第2学年の結果を基に、本校の学生の英語運用能力の向上を図る上での課題と、英語運用学習におけるポイントについて詳述したい。

2. Coreの分析結果

第1学年が受験したCoreテストについて、本校の平均と全国平均（高校1年生の3年間分）の結果はTable 1のようになっている。

Table 1

	リーディングスコア (正答率 (%))	リスニングスコア (正答率 (%))
本校学生	111.9 (70.0)	124.8 (73.4)
全国平均	151 (88.9)	155 (91.2)

Table 1を見ると、リーディングもリスニングも、本校学生は全国平均より30～40点ほど下回っている。リーディングとリスニングを比較すると、リスニングの方がわずかだが高いといえる。全国平均と比較して、リーディングよりもリスニングスコアの成績差が少なくなっている要因としては、必修科目「コミュニケーション・スキルズⅠ」の授業の成果が考えられる。この科目は2単位(通年週2時間)で設定されている。前半の50分は、CDによるリスニングを集中的に実施している。必要に応じて、ディクテーション(書き取り)や発音の反復練習などを実施している。また、絵柄の入ったカードを用いたり、ゲーム形式を採用したりするなど授業に工夫を凝らしている。後半の50分はLL教室でコンピュータ機器を使用してリスニングからスピーキングへの段階的な移行を図っている。最初に、マイクロフォンを通じて会話を聞いて、キーボードで入力していく。このとき、どうしても聞き取りにくい箇所が出てきた場合、会話の速度を遅くしてしっかりと聞き取るように指導している。その後、その聞き取った会話をもとに機器を操作しながら会話の練習を行い、2名ひと組で録音して提出する。この場合も途中で英語運用に関するDVD教材を用いて、飽きさせない工夫をしている。最終的に会話練習に至るまでに、頻繁にリスニングの機会を採り入れている。このことがリスニングのスコアにその効果として表われているように思われる。

リーディング能力を測定する内容に関しては、3つの問題内容に分けられている。そのうち2つ目の問題内容は英語で書かれたメニューやチラシなどを見て、その内容に関する問題に答える「図・絵の理解」と、60語程度の英文を読んでその要旨を選ぶ「短文概要把握」の2つから構成されている。この点を再区分し、正答率(%)をまとめると次のようになる。

Table 2

「語彙語法問題」	「情報検索・概要把握問題」		「要点理解問題」
	「図・絵の理解」	「短文概要把握」	
66.6	82.5	50.6	54.7

「語彙語法問題」はフレーズや文脈の意味を考えて適当な語彙を選ぶという問題である。この問題はフレーズや文脈を正しく理解し、適切な語を想起できれば解ける。本校の学生の正答率は66.6%となっている。さらに詳しく見ていくと、名詞・形容詞の問題での正答率はそれぞれ78.2%、70.4%となっているのだが、動詞と前置詞に関する問題では51.1%と58.6%となる。この結果から言えることは、本校の学生は、動詞と前置詞に関する語彙力が低いということである。このことが示唆することは2つ考えられる。第一に、動詞の知識不足は文型を理解できないことに繋がり、文章の意味を明確に捉えることができないということになる。第二に、前置詞の理解不足は、文が長くなればなるほど理解度が下がることに繋がる。1つの英文を長くするものは様々考えられるが、まず簡単なものは前置詞句を繋げることであり、つまり、前置詞句を理解できなければ、1文のみの文でも、長くなるにつれて意味が理解できないことになる。

次に、Table 2の結果から分かることは、文章の内容把握力の弱さである。これが「短文概要把握問題」と「要点理解問題」の正答率に表れている。この結果の要因としては、英語を読むために必要な語彙力が不十分であることと、特に、上で述べた動詞の理解不足により文章の内容を的確に捉えられていないことが挙げられる。

ライティングに関して、本校学生の平均スコアは80.1であり、一方、全国の高校1年生の平均は101である。リーディングやリスニングと比較すると、全国平均との差はさらに少なくなっており、GTECからの分析結果としてグレードは3という結果が出されている。このグレードは、「話の展開はやや不十分だが、具体的な事例を含めて、ほぼ課題に沿った内容が書けている。文の多くは論理的に整理され、構文や語彙にもいくらか多様性が認められる。時にミスによって考えが伝わりにくいことがある。」というものである。このライティングの結果に関しては、まず、「総合英語Ⅰ」の授業の成果が考えられる。この授業においては、毎時間、当該時間に学習した構文や文法を用いての英作文の課題が課される。GTECの結果を見ると、この作業により、本校学生のライティング能力が確実に伸ばされているのが見て取れる。

ライティングの結果から分析される本校学生の問題点もある。ライティングでの結果によれば、「語彙」についての採

点結果において、本校の学生に関して「2.5～4点」が約65%であった。これは、8点満点での採点結果である。この「2.5～4点」というのは「自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある」というレベルである。読解力を向上させるためには、まず語彙力の強化が必須である。

また別の角度から見ると、本校学生のGTECでのトータルスコアの平均は316.8であり、中学1年生～高校3年生までの全国平均と比較すると、中学2年生に近いスコアとなっている。この点から分析すると本校学生の1年生の語彙力は中学2年生と同程度ということになる。英語力を伸ばすためには、この点を最も改善しなければならない。

3. Basic の分析結果

第2学年が受験したBasicテストについて、本校の平均と全国平均（高校2年生の3年間分）の結果は、Table 3のようになっている。

Table 3

	リーディングスコア (正答率 (%))	リスニングスコア (正答率 (%))
本校学生	135.6 (36.5)	134.5 (44.8)
全国平均	168 (41.2)	172 (50.2)

Table 3を見ると、本校の平均は全国平均より30～40点ほど下回っている。第2学年においては、第1学年の結果とは逆に、リスニング能力よりもリーディング能力の方が全国平均との差は少ない。

リーディング能力に関して、はじめで述べたように3つの問題内容に分けられている。そして、2つ目の「情報検索・概要把握問題」の内容は、Coreのものよりも少し長い英文で書かれたチラシを見て、その内容に関する問題に答える「図・絵の理解」と、60語程度の英文を読んでその要旨を選ぶ「短文概要把握」の2つから構成されている。

この点を再区分し、正答率 (%) をまとめると次のようになる。

Table 4

「語彙語法問題」	「情報検索・概要把握問題」		「要点理解問題」
	「短文概要把握」	「図・絵の理解」	
40.4	35.8	36.3	32.8

語彙語法力に比べ読解力（「情報検索・概要把握問題」、「要点理解問題」）の方がわずかだが劣る結果となっている。また、1年生とは違い「図・絵の理解」に関する問題も英文が多く入っているため正答率が落ちる結果となっている。この結果から言えることは、高校1・2年のレベルの英語に関して、本校の学生は語彙力・読解力ともに不十分であるといえる。

「要点理解問題」において顕著に見られるのが、本文の主題についての選択問題の正答率が低い傾向にあることだ。内容に関する問題は正答を選ぶ率が一番高いのだが、主題についての問題は誤答を選んだ率の方が高くなる。また、この主題に関する問題は「短文概要把握」においても同様に出現されているが、短文での問題では正答を選ぶ率の方が高い。この「短文概要把握」と「要点理解問題」の違いは文の長さだけであり、約200～300語から構成されている文になると正答を選ぶ率が格段に落ちる。これは本校の第2学年全般に語彙力・読解力不足に加え長文を読み慣れていないということが原因であるように思われる。

また、「要点理解問題」において正答率を下げているもう1つの要因は「scanning」や「skimming」という読解技術が身につけていないということである。「scanning」とは必要とする特定情報の「検索読み」であり、「skimming」とは文章全体の「すくい読み」である。全国平均が高い問題はこれらの方法を用いれば容易に正答が見つけられる問題が多い。一方、本校生は、これらの方法を用いることができる問題において正答率が上がっていない。つまり、これらを用いることを意識していない結果と考えられる。これらは長文読解問題には必要な方法であるが、長文読解問題を解く機会が少ないために身につけていないと思われる。この点は、今後の課題として検討すべき事項である。

3. まとめ

英語運用能力試験として実施した GTEC のスコアを分析した結果、本校の課題は、まず第 1 に、語彙力の強化ということが判明した。英語力を伸ばすためには、語彙力の不足を最も改善しなければならない。年度当初、各クラスにおいて、英語に関するアンケートをとったところ、「単語を覚えるのが嫌い」と答えた学生が多数いた。この点からも、単語を覚える時の工夫が必要である。例えば、建築、政治、運動、ファッションなどのテーマ別に分類された短文を読むことで、各分野に共通の単語を集中的に覚えることや、インターネットを用いた英語サイトの活用や、扱うテーマや資料の充実といった、覚えさせるための工夫が教員側にも必要であると思われる。特に、動詞に関する知識が不十分であることも大きな課題である。英文を読み、意味を正確に理解するために、動詞をまずしっかり覚えることが重要である。現在、「コミュニケーション・スキルズ I」において DVD 教材を用いて動詞を集中的に学習しているので、この効果を期待したい。

2 つ目の課題は、長文を読む「scanning」や「skimming」といった技術を身につけさせることである。学生は英文を読み、その問題に答えるというテスト形式の長文をあまり読みなれていないため、長文を読むための技術が不足している。長文の内容を短い時間で正確に把握するための方法を教授することも視野に入れて、今後の検討課題としたい。

一方、全国平均には及ばないものの、リスニング能力は比較的伸びてきているので、現在の授業方針を堅持しつつ、新たな方策を検討したい。ライティングについては、授業の成果が徐々に表れて、英文を書くことがあまり苦にならないう段階に達しているため、さらに工夫をしてエッセイが書ける程度まで全体の底上げを図っていききたい。

最後に付け加えたいのは、GTEC 成績が校内成績と必ずしも一致しないことは、指導によっては学生にとって動機づけの効果をもたらすことができるということである。校内成績があまり良くない学生が GTEC で好成績を出した場合、自分の潜在的英語力に自信をつけさせ、校内成績の向上に結びつけることができると思われる。逆に、校内成績が良い学生が GTEC であまり振るわなかった場合、校内での実績を元に外部試験に向けたさらなる努力をするよう動機づけができると思われる。

参考文献

- [1] Bloom, B.S., (Ed.). 1956. *Taxonomy of educational objectives: The classification of educational goals: Handbook I, cognitive domain*. New York: Longman.
- [2] 柴田純子・井上英俊. 英語検定試験における高専生の現状と意識 — 岐阜高専 TOEIC 団体受験の結果から—. 全国高等専門学校英語教育学会 研究論集 第 22 号 pp. 45-52. 2003
- [3] 松尾秀樹・森下浩二・大里浩文・下司睦子. TOEIC IP テストの実施取り組みを振り返って. 全国高等専門学校英語教育学会 研究論集 第 24 号 pp. 45-54. 2005
- [4] 松尾秀樹・大里浩文・森下浩二・石貫文子. 外部テスト (BASE テスト・ACE テスト) と課題テストの相関について. 全国高等専門学校英語教育学会 研究論集 第 27 号 pp. 29-36. 2008